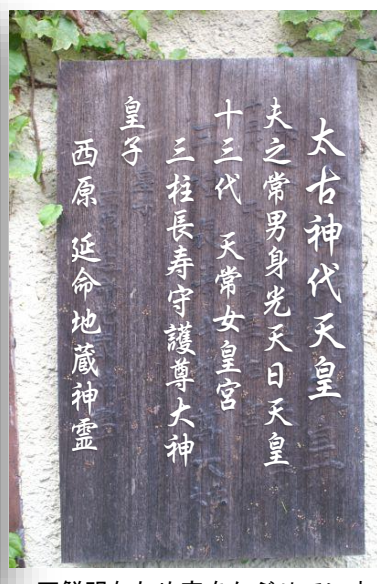


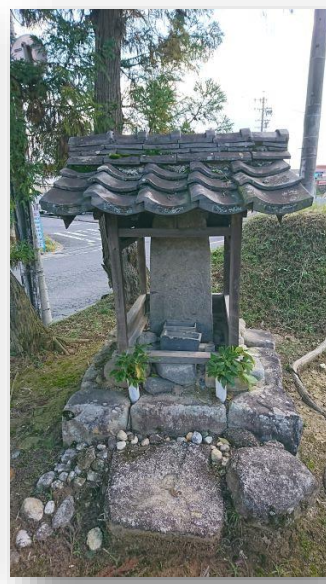
# 第6回 美旗市民大学紙上講座 ～西原町物語～

本年度はコロナウィルス感染拡大防止のため美旗市民大学講座を「美旗市民センターだより」の紙面にて、テーマを「美旗まち歩き」として展開しています。\*今までの資料は当センターにあります。

**西原町** 新田開発の際に新田村の第六小場こぼであったが、大正3年に新田村から独立して「西原」と称しました。美濃原の西端にあたるのでこの地名になったとの記述もあります。その後、昭和29年7月名張市制施行時に、当時としては珍しい「西原町」に改称されました。また西原町の鏡屋と呼ばれる場所は、新田を真似て作られたため、鏡で写したような場所という意味でそう呼ばれています。



不鮮明なため字をかぶせています



役行者の像

**延命地蔵と道標** 上の部分の延命地蔵は、このすぐ横に木版があり、上記のように記されています。この意味ははっきりとはわかりませんが、長寿を祈る①延命地蔵だということがわかります。近所の人が毎日水を替えお守りされています。

台座には「天下大平道中安全」や「右いせ道 左うゑ乃道」の文字があります。この台座は蔵持から西原までの初瀬街道と旧上野街道の追分（道が分かれる場所）現在の桔梗西の旧桔梗が丘中学校第二グラウンド付近から移されたものです。

①延命地蔵とは、新しく生まれた子を守りその寿命を延ばすというお地蔵さんです。



**初瀬街道** 桔梗西の追分から、西原の交差点付近に抜ける山道が初瀬街道です。（古い地図には「ひがしだの道」と記されています）このひがしだの道は短い距離ですが、古い道の雰囲気が残っています。旧上野街道と初瀬街道の追分は、現在の桔梗西の「こども支援センター かがやき」付近ですが、高台で大変見晴らし良く、藤堂藩主も素晴らしい眺めであるとおっしゃったとか。

### 供養碑（安政2年）1773年

初瀬街道から西原の368号線に出ると、②大峰山から譲り受けたという石碑があります。

藤堂藩の命を受けて、新田開発に尽力された加納直盛・直堅親子の供養のため、西原の家臣の人が大峰山にお参りをして持ち帰ったという供養碑で、社の中の石碑には②役行者が描かれていて、家臣の子孫のかたが現在もお祀りされています。

②大峰山 役行者が開山した奈良県の山で、修験者が修行をした。

③役行者 修験道の開祖

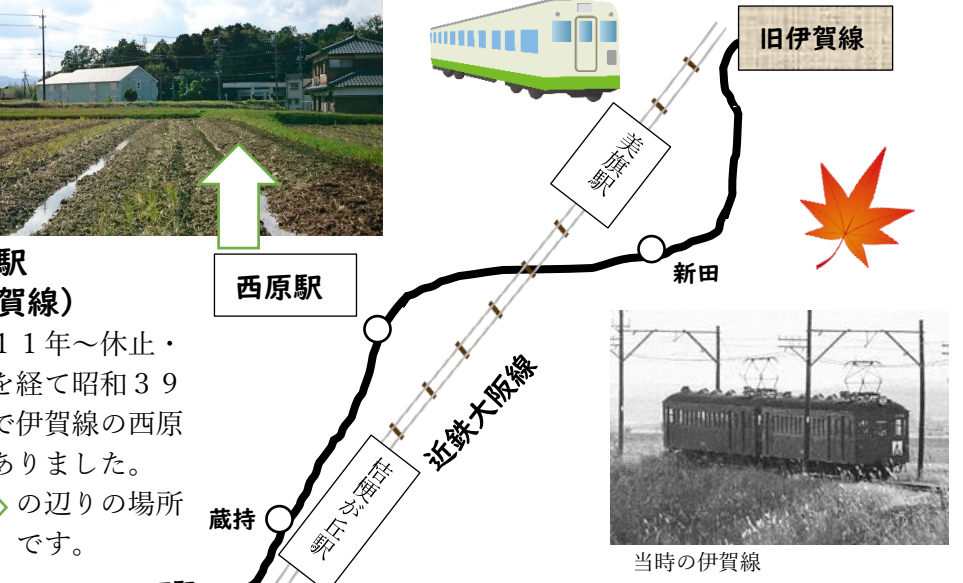


西原駅 (伊賀線)

大正11年～休止・再開を経て昭和39年まで伊賀線の西原駅がありました。

の辺りの場所です。

西原駅



当時の伊賀線

### 伊賀線西原駅の変遷

- 1922年（大正11年）伊賀線 上野町一名張駅間開業に伴い「西原駅」開設
- 1945年（昭和20年）伊賀神戸駅—西名張駅間休止
- 1948年（昭和23年）新田駅—西原駅再開
- 1964年（昭和39年）伊賀神戸駅—西名張駅間廃止場所は現在の北中の近くに「西原駅」がありました。



### 八幡神社

西原町の鏡屋の鎮守の杜に、静かにお守りされている神社です。3月15日と8月15日の名月の日にお籠りをされていました。また、20年ごとの造営も行い、鏡屋の守り神として、現在でもお祀りされています。



来月号は、第7回「どんでで疫病退散 美旗中村」です。